

## 平成26年度の主な事業報告

法人名	社会福祉法人御荘福祉施設協会
-----	----------------

社会福祉事業
--------

## I 特別養護老人ホーム自在園

法人の経営理念に基づき、入居者の尊厳と自立支援を目指し地域と共に歩む園づくりを目標に、入居者やご家族の意向に添い、その人の能力を十分発揮し安心した日常生活が送れるよう適切な介護、相談援助、健康管理、機能訓練、健全な環境づくり等に取り組みました。新施設に移り2年目となる今年度は、従来型特養・ユニット型特養の新体制にも慣れ、入居者職員共に快適な環境の中 ①一人ひとりの心に寄り添った優しい介護 ②安全と安心の幸せな暮らしの支援 ③ご家族や地域との絆を大切にする ④職員の輪を大切に笑顔と思いやりのある職場 をめざし、新たな気持ちで取り組みました。詳細は以下の通りです。

## 1 一人ひとりの心に寄り添ったやさしい介護

- ① 新入居時や退院時、半年毎のケアプラン作成では、139名に285回、そのうち、カンファレンスへの本人出席207回(72.6%)・家族出席198回(69.5%)でした。開催時には、各担当から24時間シートに基づき各人の一日の生活の流れや実施記録、データによる説明等を行い、情報の共有化を図り、ご家族・入居者の意向に沿ったケアプラン作成に努めました。今後も適切な記録やモニタリング、多職種の連携により、自立へ向けたプラン作成と適切な支援に努めていきたいと思っております。
- ② 適切なアセスメントに基づく日常生活動作訓練は習慣化でき、身体機能の維持回復に効果が見られました。個別プログラムによる訓練では10項目を実施し、総計で3,541名-83,352回でした。リハビリ室が館内中央に設置されたことや介護力向上に向けた歩行支援の取り組みにより、前年度より総計で394名-11,621回多くなっており、入居者・職員共にリハビリ意欲が高まった結果となりました。
- ③ 栄養ケアマネジメントにより、嗜好や食習慣、嚥下や咀嚼機能に合わせたムース食・栄養補助食品の提供、補助具等の工夫やダイニングチェア等でのシーティング、食後の座位保持や歯科医師による口腔ケア指導、歯科治療等で経口摂取維持と誤嚥性肺炎の予防に努めました。3月末日での経管栄養者は18名(16.4%)、療養食の提供は6名(5.5%)でした。また、3名の常食化に取り組み、摂食・嚥下障害看護認定看護師の指導もあり、うち1名が一時的ではありますが経管から常食へ移行することができました。介護力向上へ向け提唱している水分は、好みに合わせた飲み物や水分補給ゼリー等の工夫で一人当たり一日平均水分量は1,404mlで目標の1,500mlには少し足りませんでした。又、ユニット炊飯やそうめん流し、ひとり鍋やビュッフェ形式の行事食等で楽しく美味しい食事の提供に努めました。
- ④ 排泄ケアについては、個人の排泄パターンの把握、水分補給と歩行訓練により、主に排便時のトイレ介助に取り組みました。各居室に十分な機能を備えたトイレもあり、年間を通して71.8%の方のオムツ外しが実現できましたが、まだまだ目標値には至っていませんので引き続き次年度も取り組んでいきます。
- ⑤ 医療面では診断、胸部レントゲン撮影(110名)、肺炎球菌ワクチン(16名)褥瘡予防委員会との連携により貧血やアルブミン値の定期検査、映像等による記録の徹底に努めました。延べ6名の褥瘡発症者がありましたが、うち2名は治癒しております。感染症ではインフルエンザの予防接種(入居者111名・職員105名)を行うとともに12/1~3/31迄外来者や面会者・職員のマスク着用と手指消毒の徹底、電解水生成装置によるフロア等の清掃によりインフルエンザ及びノロウィルス等の感染はありませんでした。入院治療については年間29人・941日、死亡退所は25名(従来型20名・ユニット型5名)で前年度より2名多く、内施設16名、病院に入院中に亡くなった方は9名で、老衰が9名、心疾患7名、肺炎2名と多く、看取り介護を行った方は4名で、ご家族より「よい終末を迎える事ができた」

## 様式第5

と感謝の言葉をいただきました。入院継続等による一般退所は昨年同様3名でした。

- ⑥ 新入居者の受け入れは年間29人で、自宅からが11名で一番多く、次が老健からの8名。新入居者の平均介護度は4.48でした。
- ⑦ 介護職員による喀痰の吸引は、2名の職員が新たに研修を受け認定されましたので、36名(73.3%)の介護職員が喀痰吸引や胃瘻注入に関わることができるようになりました。
- ⑧ 身体拘束、高齢者虐待では、毎月の検証や基本的対応等について研修を行い、具体的な事例の発症はありませんでしたが、インシデント・事故報告では発生件数25件(うち受診件数19件)で骨折等の町への報告は2件でした。人権擁護相談事業(28名面接)、第三者委員会の開催等で意識の高揚に努めました。ケアの内容と対応についての苦情が1件ありました。今後も入居者の権利や尊厳を守りながら親切丁寧な接遇に心がけ、安全で安心できる暮らしを支援していきます。

### 2 安全で安心の幸せな暮らしを支援します

- ① 日々の暮らしの中で、その人らしさや個人の生活習慣・価値観を大切に、入居者やご家族の思いに寄り添えるよう支援しました。入居者が主体の寿会活動を中心に、社会的役割の構築にも努め、生活機能を生かしたお手伝いなどは日々の生活に浸透し、潤いを与え生き甲斐や仲間作りに繋がりました。また、日課や状況に応じた勤務体制の工夫等で柔軟に対応しながら各家の特色を生かした生活支援ができました。
- ② 四季の行事はご家族や地域の人々の協力を得、企画委員が中心となり計画どおり実施できました。ユニット毎のバスハイクや「思い出してく」等での外出(年間138回=475名)、「さわらび会(短歌の会)」への参加、東海小学校との交流等、地域との繋がりを深め生活空間の拡大を図ることができました。
- ③ 7つのクラブ活動(年間=3,790名・月平均315名)や、ユニットレク(年間=2,685名・月平均223名)各地のイベント参加、各種団体との交流で、暮らしの中に心地よい刺激や楽しみを見つけることができました。今後もそれぞれのニーズに沿った楽しみを支援できるよう更なる工夫を行っていきたいと考えます。

### 3 ご家族や地域との絆を大切にします

- ① 愛南町を始め、各事業所との連携を密にし、年3回の入所検討委員会を実施、3月末の待機者は従来型292名・ユニット型202名(重複申請者182名)でした。
- ② 面会では年間1,070名の入居者に3,971家族、6,215名の来訪がありました。又、家族会活動として毎月の誕生会(年間47家族=72名)を始め、年間21の事業に対し732名の協力がありました。特に文化祭はCATVで連日町内に放映され好評でした。実習・施設見学等の受け入れでは年間187名=299日、ボランティアでは定期的な行事協力など年間112回983名の協力がありました。
- ③ ホームページの作成をはじめ、「安ちゃん心ちゃんの事業所制度」の加入、東海公民館やサロン「うみ」等の協力で季節ごとの花の植樹、県社協主催の若年層向け福祉介護体験事業、緑小学校への出前事業等、社会貢献活動にも積極的に取り組みました。
- ④ 毎月の機関誌自在(340部発行)では、ご家族や地域の皆様に施設での暮らしを伝えることで理解や協力が得られたように思います。

### 4 職員の和を大切に笑顔と思いやりのある職場にします

- ① 委員会活動や毎月の職員研修会(延べ13=558名)、各種会議、安心マニュアルの見直し、新規採用職員研修(対象者13名・14科目=39名)、他県内外の研修等(192回=375名)でチームケアや介護技術の向上、専門知識の習得に努めました。
- ② キャリアパスにより各自目標を持って職務に携わり、人事考課制度では自己評価・第一・第二評価、面接等による振り返りや気づきの機会をつくり、職員一人ひとりの貴重な意見を施設運営に反映させ、モチベーションの向上へ組みました。
- ③ 働きやすい職場環境づくりの一環として「えひめ共働き支援キャンペーン」へも賛同、4名が育児休業を取得しました。ハード面では新会計基準対応ソフトの導入、パソコンの増設2台(図書室・シ

様式第 5

ョート)、カラオケリースの取替え、デマンド監視装置の設置、ダイニングチェアの追加購入等を行いました。今後も一般事業主行動計画の実践へ向け職場環境の更なる改善に取り組みたいと考えます。

- ④ 臨時職員の正規職員登用 6 名、介護福祉士 4 名、介護支援専門員 1 名の資格取得、職員親睦会活動の支援等で職場環境の改善を図りました。

昨年度より老施協では、持続可能な社会保障制度に向け、高機能特養のケアは自立支援介護の実践とし、介護力向上講習会を開催し認知症ケアや日中のオムツ外し、常食化等への取り組みを提唱しています。職員一丸となって取り組んだ結果 71.8%のオムツ外しが実現でき、年 5 回のデータ提出の最終では 43 施設中 15 位にランキングされました。介護度も年間を通し改善 15 名、悪化 10 名となりました。今後も引き続き取り組みを継続します。次年度は介護報酬の改定があり益々運営が厳しくなると予想されますが、ケアの質への期待は高まると考えます。常にノーマライゼーションの原点に立ち返り、良いチームワークを組みつつその人の望む生活、暮らしの実現と地域に信頼され共に歩む施設づくりに向け取り組んでいきたいと思ひます。特に今年度は優良民間社会福祉事業施設・団体に対する天皇誕生日に際しての御下賜金を拝受し、入居者、職員一同感激と喜びに浸ると共に更なる質の向上、地域福祉の拠点として使命を再認識したところです。

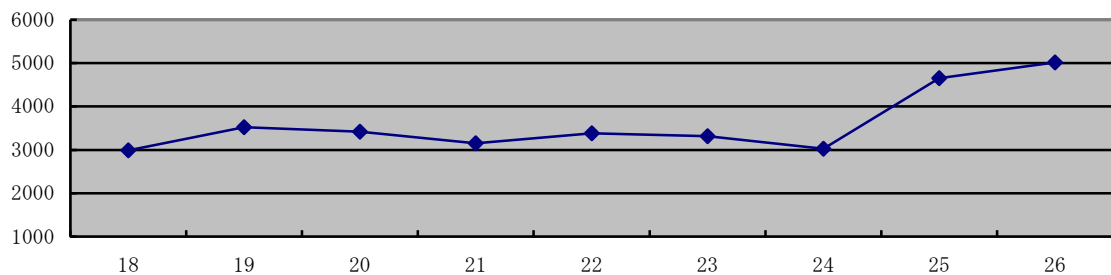
II 指定短期入所生活介護事業所自在園

ご利用者が可能な限り住み慣れた居宅において自立した生活が送れるよう各居宅介護支援事業所、愛南町地域包括支援センター等との連携を図りながら適切なサービスの提供に努めました。

- 1 13 床の定員に加え、入院等による空床(従来型・ユニット型)を十分に活用し、ニーズに対応した結果、年間延 861 名 5,019 日(従来型 845 名-4,816 日・ユニット型 16 名-203 日)の利用があり、昨年に比べ 133 名多く、日数でも 365 日多くなりました。ケアマネとのこまめな連携、特定の長期利用者の利用、新規利用者(37 名)の積極的受け入れ等にも努めました。

年度別利用状況

年度	19	20	21	22	23	24	25	26
利用人数	428	448	436	486	572	505	728	861
利用日数	3,523	3,420	3,155	3,384	3,316	3,030	4,654	5,019



介護度別利用状況(平成 26 年度)

介護度等	要支援 1	要支援 2	経過的要介護	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
利用日数	0	34	0	288	876	2,121	1,397	566	5,019

- 2 サービス担当者会議の出席や事前調査、ケアマネへの利用状況の報告、介護サービス事業者との情報交換等で連携を図りました。又、重度者や認知症の方の利用も多くなりましたので、体調の把握や症状変化の早期発見、見守りや寄り添いを徹底しましたが 2 件のインシデント・事故報告があり、そのうち、骨折が 1 件ありました。

## 様式第5

- サービス内容や緊急時の対応等は特養入居者と同様ですが、対象者に合わせた居室割りや帰宅当日の入浴等、少しでもご家族の介護負担の軽減が図れるよう努め、苦情申し出はありませんでした。
- ケアプランでは、居宅介護支援事業所のプランに基づき 58 名-173 回作成しました。今後も計画的な作成と適切な記録等に努め、安心してご利用いただけるよう努力してまいります。

### Ⅲ デイサービスセンター自在

法人の経営理念に基づき、要支援・要介護認定を受けたご利用者が、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活が営むことができるよう、必要な日常生活のお世話及び機能訓練を行うことにより、ご利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上並びに、ご利用者のご家族の身体的・精神的負担の軽減が図れるようサービスの提供に努めました。

#### 1 ご利用者の意思尊重

- ① 個人の意思及び人格を尊重し、常にご利用者の立場に立ったサービスの提供に努めました。また、送迎時での会話や連絡帳、電話連絡にてご家族と情報交換を行い信頼関係の構築に努めました。
- ② 在宅生活が継続できるよう、自転車漕ぎ訓練や脳トレドリルなどを行い、運動・精神機能の維持・向上を図りました。
- ③ ご利用者やご家族に趣味嗜好等の聞き取りを行い、集団レクリエーションや一人ひとりにあった創作活動（水彩画、塗り絵、折り紙、編み物、貼り絵等）を実施し、作る喜びや楽しみをもっていました。
- ④ 12 月にご利用者、ご家族にアンケートを実施しました。アンケート結果を踏まえ、事業所の体制整備や改善すべきところは改善し、ご利用者ご家族共に安心して在宅生活が続けられるお手伝いができるよう努めました。
- ⑤ 平成 26 年度も、週 7 日を介護保険通所介護事業の稼働日とし連絡調整を行い、ご利用者やご家族の選択の幅の広がりや介護負担の軽減につながる等、希望に少しでも添えるよう取り組みました。新規利用者 23 名獲得。（介護予防 3 名、通所介護 20 名）（利用中止者 19 名死亡等）、平成 26 年度末、登録人数（介護予防 35 名、通所介護 72 名）合計 107 名となっています。
- ⑥ 26 年度は施設見学、新規利用者、ご家族の見学もあり、デイサービスでの活動内容や過ごし方を実際にご家族に体験していただき、理解を深めるとともに親睦を図ることができました。また、「家族さんの見学会」の聞き取りアンケートを行った結果、時間が合えば見学のご希望が多くあり、平成 27 年度は開催を検討、今後、より多くのご家族に参加していただき、親睦や理解を深められればと考えています。

#### 2 通所介護計画の作成

- ① 居宅介護支援事業所の居宅サービス計画書に沿っての通所介護予防計画書（101 件）、通所介護計画書（215 件）の作成や評価を行い、ご利用者の自己実現や生きがいを持っていただけるようサービスの提供に努めました。
- ② 日常生活動作はもとより、生活歴や趣味嗜好、サービス実施によるご利用者やご家族の感想や希望等を聞き取り、よりご利用者やご家族の希望に沿ったサービスの提供に努めました。
- ③ 平成 26 年度も、パソコンソフト（ほのぼのネクスト）を活用しケース記録の簡素化、書類業務の簡略化に努めました。

#### ■月別通所介護計画書作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	7	4	6	9	15	12	6	7	5	4	9	17	101
通所介護	14	19	16	12	14	22	16	15	16	22	21	28	215
合計	21	23	22	21	29	34	22	22	21	26	30	45	316

### 3 関係機関との連携

- ① 担当者会議や電話連絡、サービス提供状況の報告にて、ご家族、介護支援専門員、地域の関係機関との連携・協力を努めました。
- ② 短期入所生活介護事業所の利用や体調不良にて入院するご利用者も多く、統一したサービスの提供や体調の変化に合わせたサービスの提供を図るため、デイサービス利用時の状態、入院中の状態、退院後の調査等、ご利用者のサービス向上につながる情報を個人情報に留意しながら、居宅介護支援事業所や短期入所生活介護事業所、訪問介護事業所との共有に努めました。
- ③ 特養運動会、地域交流文化祭にデイのご利用者も参加する等、自在園ご入居者との交流も図りました。

### 4 リスク管理・防災対策

- ① リスクマネジメント委員会を中心に、ご利用者に安全に過ごしていただけるよう、毎日のミーティングや毎月のデイサービス会議にて情報共有を行い、事故の予防・再発の防止に努めるとともに危険因子の発見、軽減に努めました。
- ② インシデント・事故申出書件数2件（昨年度2件）、車両事故3件（昨年度13件）、ひやり報告書件数159件（昨年度168件）でした。今後より一層のリスク管理に努めます。
- ③ ひやり報告書では、食事時、水分補給時のムセの記入も行き、誤嚥や誤嚥性肺炎の危険性の把握をし、食事時の見守りの強化や食事形態の検討を行いました。
- ④ 消火訓練、避難訓練、消防設備取扱い方法の研修を行い、ご利用者の安全を確保し、迅速且つ適切な対応方法を身につけると共に、ご利用者・職員の防災意識の向上を図ることができました。

### 5 職員の資質向上

- ① 県内外の研修会・園内の各種会議、専門委員会等により専門性や教養を高めると共に、対人接待や言葉遣い、身だしなみ等、接遇能力を高めながら人材の育成に努めました。
- ② 愛南町通所系事業所連絡会等へ参加し、他事業所との情報交換や地域の社会資源として関係機関との連携を図り、地域に貢献する力を養うことができました。

## IV グループホームみしょうの里

人格を尊重したサービスの提供、自立支援、生きがいづくりを基本方針として、家庭環境の中、安心して生活が送れるよう支援しました。詳細については、以下の通りです。

### 1 個別ケアについて

ご利用者一人ひとりとコミュニケーションを図り、その人と向き合うことで思いや気持ちを理解するよう努め、行動や言動を見守り安全に安心して暮らせるよう支援させていただきました。高齢化により認知症の進行、重度化していますが、その人の残存機能を引き出し、自発性を促す等、できることを支援させていただきました。

### 2 生きがいへの支援について

ご利用者一人ひとりのできることに目を向け支援させていただきました。家事仕事（食事の下ごしらえ、洗濯たたみ等）本を読んだり歌を唄ったり、その人のできることや得意なことを支援し、生きがいや楽しみのある暮らしをしていただけるよう努めました。しかし、高齢による重度化や認知症の進行により年々と困難となってきているのも現実です。また、月一回のはまゆう保育所園児や御荘保育所園児との交流を楽しみにしておられ、子どもたちとふれあうことで、たくさんの笑顔が見られました。

### 3 ご利用者への言葉かけについて

尊厳を大切にされた言葉かけや感謝の気持ちを大切にし、日常的な挨拶や「ありがとう」「助かりま

す」「うれしい」といった心地よい言葉かけに心がけました。しかし、日常的な関わりの中で、時として強い口調になったり、感情的な言い方になることもあったため、気持ちにゆとりと余裕を持ち、常に平常心での対応に努め、ご利用者との信頼関係を築いていきたいと思ひます。

#### 4 ご家族との関わりについて

ご利用者8名全員の方に月平均23回33人、年間401人の面会がありました。来里時にはご利用者の体調や様子を伝えることでご家族との連携を図れ、受診時にはご協力をさせていただきご利用者との交流やつながりを支援できたと思ひます。花火大会には4家族10名、クリスマス会には2家族2名の方と共に地域の方と一緒に楽しいひとときを過ごすことができました。毎日2～3行程ではあります、日々の生活の様子を機関誌「自在」と共にお渡しし、ご家族の方からも「ホームでの様子がわかり、毎月楽しみに読んでいます」と喜んでいただいています。

#### 5 地域との交流について

花火大会見物（地域の方27名参加）、地方祭（7団体）、クリスマス会（地域の方3名参加）、避難訓練（10月5名、3月4名参加）等で地域の方々のご協力をいただき交流が持てました。

またご利用者の知人の方も訪ねて来られて交流を図ったり、一緒に外出しお花見や忘年会等、数名の知人と楽しく過ごされたご利用者もおられます。町内のグループホームや地域包括支援の職員の方との2ヶ月に1回の集まりで、情報交換の場を持ち交流することができています。これからも地域の方との交流を深め、つながりが途絶えることなく日常的な関わりが持てるよう今後も努力していきたいと思ひます。

#### 6 ケアプラン作成について

3ヶ月に一度、見直しを行い、面会時にご家族へ参加していただき説明を行ったり、電話等で要望や希望をお聞きし、ご利用者本人やご家族の思い等をケアプランの中に生かせるよう作成しました。今後も一人でも多くのご家族の参加を促し、要望や思いに沿ったケアプランを作成していけるよう努めていきたいと思ひます。

#### 7 健康管理について

毎日のバイタルチェックや日々の関わりの中で体調を把握しながら健康管理に努めました。しかし3名の入院者が発生し、1名の方は食事摂取が困難となり、胃ろう造設により退居となりました。ご利用者の高齢化により嚥下状態の低下がみられ、食事時のむせ込みや誤嚥の危険性が大きくなっているため、食事時の嚥下状態に合わせた声かけ介助、正しい姿勢の確保により誤嚥防止に努め、ご家族や主治医に報告し、状態に応じた早めの対応に心掛けたいと思ひます。

#### 8 避難訓練について

地域の方にご協力していただき、10月には日中の火災訓練及び消火訓練と、地震・津波を想定した避難訓練を行い、3月には夜間の火災を想定しての避難訓練及び消火訓練を実施しました。また、避難訓練時には愛南消防隊員2名が来里し、避難状況を見て指導していただきとても勉強になりました。日頃から防災に対する意識を強く持ち、訓練を重ねることで冷静な判断力を身につけていきたいと思ひます。

## V はまゆう乳幼児保育所

### 1 経営及び保育実践内容

今年度は、0歳児12名、1歳児19名、2歳児20名の計51名でのスタートとなりました。前年同様に0歳児の途中入所が多く31名となり、低年齢より保育所に入所を希望する親が際立って多くなってきたようです。最終的に70名と定員以上となりました。途中入所に対応できるよう職員の短期雇用を順次実施しました。

今年度は、自在園跡地に施設改築後12月に移転となりました。多くの皆様方のご協力を得ながら新園舎にて快適に過ごすことができることを感謝しております。年度途中の移転による環境の変化に子ども達が無理なく慣れるよう子ども一人ひとりの気持ちを十分に受け止め養護が行き届きできるだけ家庭的な保育の実践に努めました。また、保護者への丁寧な対応、また、職員の連携を図り怪我

や事故等の防止に努めました。

## 2 地域との交流

自在園の移転により高齢者と触れ合う機会は減り、月一回グループホーム「みしょうの里」に、さくら組の園児が少人数で訪問し交流しております。今年度は、自在園より高齢者が運動会や一日孫、お祭りごっこ等に来所してくださり、園児と一緒に遊んだりして楽しみました。また、地域の高齢者を夕涼み会や運動会に招待し交流しました。

## 3 地域に開かれた保育活動

保護者が自由に保育所を選べる時代になり、職員一同、当保育所を選んでもらえるよう保護者が求めているニーズを常に把握し、子育てをサポートできるよう保育サービスを行っております。保護者からの苦情などに対しても迅速丁寧な対処ができるようにしております。昨年度同様、26年度も苦情はありませんでした。

地域の未就園児を対象とした子育て支援は例年通り実施しております。少子化により出生数は以前と比べて減っていますが、個人の利用回数や時間は多くなってきているので利用する子どもの年齢等考慮しその都度内容に変化を持たせたり、親と共に子育てできるように対応し楽しく参加できるよう配慮しております。26年度の利用者は、延べ1,567名となっています。

地域支援活動としては、県立南宇和病院小児科外来前に季節の壁面装飾、社会福祉施設等へ遊具や教材等の貸出を行ったり、毎月、御荘夢創造館や内海保健センターの育児相談に出向き、子育てのサポートをしております。中学生、高校生、大学生の保育体験学習やボランティア等19名の希望があり18日間に分けて実施しました。

延長保育や土曜保育は、年々利用者が多くなっています。土曜保育は、毎回20～30名の希望者があり、全園児の3～4割が利用している事になります。延長保育も7時まで利用する園児が多くなってきており、時間帯も早朝より遅くまで長時間保育所で生活するため、子どもが不安にならず安心して生活できるよう配慮しております。

また、地域の方が「ヨガ教室」を開催するにあたり保育所を開放し、月2回ホールを利用して実施しております。少しずつ情報が周知されつつあるのか地域の方の参加者が増加しております。

## VI 通園（デイサービス）事業 おれんじくらぶ

26年度の利用人数は、放課後等デイサービス（小学生以上）36名と児童発達支援（幼児）20名の合計56名です。愛南町のほかには、宿毛市から6名の利用がありました。

### 1 療育の基本

児童発達支援の基本である日常生活における基本的動作を習得すること、また集団生活に適応することができるように、その置かれている環境に応じて、効果的な指導及び訓練を心がけています。

### 2 実践内容

- ① 一人ひとりの実態を把握し、保護者の希望やその子どもさんの将来像をイメージしながら個別支援計画を作成し、4カ月ごとに見直し、話し合いを持っています。
- ② その子に適した保育所・幼稚園への入園、あるいは教育機関への入学を目指し支援を続けています。保護者とスタッフが学びあい、育ち合う姿勢を持ち、幅広く子どもの発達を支援しています。
- ③ マッサージ、ミュージックケア、感覚統合遊び等でお母さんと一緒にスキンシップやふれあい遊びを通して楽しさを共有しています。親子のつながりを深め、他人への関心を育てます。
- ④ サーキット遊び（いろいろな体育遊具を使って）体中を動かすことで、バランス感覚や持久力、筋力、スピードといった身体の協応性の発達を促します。
- ⑤ 手や指を使った遊び（おはじき入れ・ペグ挿し・紐通し・パズル他）手先の巧緻性を高め、知力を伸ばします。
- ⑥ 小集団でゲームを楽しみながら、順番待ちをしたり、交代することを覚え、ルールや役割の理解ができ協調性が育ち協力関係ができるように支援しています。

## 様式第5

⑦ 認知遊び（マッチング・カードフラッシュ・文字学習・数量 他）繰り返しの学習で認識（知覚・記憶・思考）や言語面・心理面の発達が促進されるように支援しています。

### 3 療育水泳（隔週でコーチに指導を受けています）

発達援助・体力増進・機能訓練・他を目的としていますが、発達に合わせたねらいを設定し、まずは【水になれる】【怖くない】【楽しい】などの意識づけをします。コーチの指導を受けながらそれぞれの能力に合わせて、バタ足練習・顔付け練習、息継ぎ練習、泳法練習に取り組んでいます。その他、公共の場を利用する際のルールやマナーについても支援しています。

### 4 親子クッキング

材料をそろえたり、料理の手順を話し合ったりすることで、親子のつながりが深まります。自分で作ったものを食べることで、苦手なものも食べることができるようになります。また、公共の場を使うルールやマナーを身に付け、自立へ向けた将来像をイメージすることができます。

小さい時から、色々な経験を重ねることが生涯の発達に大きく影響すると思われています。

### 5 園内研修・勉強会

南愛媛療育センター・心理司 山口 香先生に発達検査をしていただき、個々に合った支援を考えています。

### 6 講演会

愛媛大学教育学部・障害児教育科 吉松 靖文先生に、療育について専門的なアドバイスをいただいたり、啓発活動として講演会を開催しました。保護者相談会では、具体的で的確なアドバイスをいただけることで、保護者の方たちから大変好評を得ています。

### 7 その他の療育活動

理学療法士による機能訓練を月2回行っています。

保育士や学校関係・保健師等と療育研修や連絡会を行い、情報交換やケース検討などに取り組んでいます。経過観察事業「とまとくらぶ」にも参加させていただき、子どもたちの成長発達の見守りを行っています。

### 8 デイキャンプ（毎年7月又は8月に1回）

デイキャンプは、初めておれんじくらぶを離れて、ホビートレイン体験をしました。事前に、宇和島駅にはお願いをしました。そのためか、駅員さんたちがとても親切で、車椅子を載せるのを手伝ってくださったり、荷物を持ってくださったり、至れり尽くせりの旅を楽しめました。子供たちもとてもいい笑顔でした。帰りは少々疲れていましたが、『兄弟児にとっても、よかったです』と言っていました。また、無理のない楽しい企画を考えたいと思っています。

### 9 地域活動について

愛南フェスタでは、今年も日本ダウン症協会・愛媛支部のダンスチーム「JOYPOP」に来ていただき、楽しく交流を図ることができました。ダンスに参加させてもらったり、おれんじくらぶ枠を作っていただき、ミュージック・ケアを、メンバーやその保護者の方たちと一緒に、楽しみました。最後には、会場に来ていただいている皆が参加し、記念撮影も行いました。とても楽しい時間でした。後日、JOYPOPの代表の方から「私たちの方が元気をもらって帰りました。ありがとうございました。」という、メールをいただきました。これからも、みんなで触れ合える機会を、たくさん作って行きたいと思いました。

元氣市では、保護者がバザーをしている間、スタッフやボランティアの生徒さんたちと過ごしました。買い物学習をしたり、町の中を散策したり地域の人たちに知っていただける、良い機会になりました。



**I 指定居宅支援事業所自在園**

法人の経営理念に基づき、ご利用者が身近な周囲の人々との関係の中で、その人らしく自立した生活を継続していけるよう、ご利用者の有する力を引き出し、身体的・心理的・社会的な状況を把握、居宅サービス計画の作成を支援することにより、適切な居宅サービスの提供が確保されるよう、サービス提供事業者、愛南町地域包括支援センター等との連絡調整に努めました。26年度の活動についての詳細は以下の通りです。

**1 ご利用者・ご家族の在宅における生活意向を考慮し、自立支援の視点に立ったケアプランを作成します**

- ① ご利用者の意思を尊重し、ご利用者の自己実現や、生きがいを持ち、自分らしい生活を創っていくために、ご利用者の立場に立った居宅介護サービス計画作成に努めました。
- ② 毎月1回以上居宅訪問を実施し、ご利用者の心身の状態、家族状況、環境等を把握し、ニーズや解決すべき問題等の課題分析を行い、ご利用者が自立した生活をおくることができるよう居宅介護サービス計画の作成に努めました。
- ③ 毎月1回以上訪問することで連絡を密にとり、ご利用者の経過の把握に努めました。
- ④ 毎月モニタリングを行い居宅サービス計画の目標に沿って、サービスの質が保たれているか、適切に提供されているか、管理や評価、記録を行いました。
- ⑤ ご利用者の状態について定期的に再評価を行い、状態の変化等に応じて、居宅サービス計画の変更を行いました。要介護認定区分変更申請については15件実施しました。
- ⑥ ご利用者の居宅において、本人、ご家族、関係サービス事業所参加のもとサービス担当者会議を実施し、情報、意見の交換を行いました。
- ⑦ 県の実地指導が9/10にあり、指摘事項については改善を行いました。

**2 プライバシーに配慮し情報を提供します**

- ① 地域のサービス事業者等に関するサービスの種類、内容、利用料等の情報を把握し、必要時には適切な情報提供を行いました。
- ② プライバシーに配慮しながら、必要な情報については居宅介護サービス事業者、及び各施設等へ必要な情報を提供しました。

**3 情報の共有化を図り、サービスの向上へとつなげます**

- ① 介護支援専門員連絡会へ7回、地域ケア会議へ3回、愛南地域連携会議へ2回、愛南町認知症ケアパス検討会へ5回、愛南町ネットワーク懇談会へ1回参加を通し、愛南町地域包括支援センターとの連携を図りました。
- ② 新規サービス利用時や、体調変化等による新サービス導入時、また介護保険認定更新時には、サービス担当者会議等の開催、必要時にはその都度きめ細かく連絡をとり、各関係機関、居宅介護サービス事業者等と情報の共有化を図りました。
- ③ 毎週1回、計53回居宅会議を開催し、事業所内で業務内容の検討、各サービス事業所の情報確認、介護保険改正情報、事例検討等を行うことでサービスの向上に努めました。

**4 苦情に対して迅速に対応します**

- ① 連絡調整の不備による苦情が1件ありました。事業所内で苦情内容を再検討し、今後、連絡調整に

## 様式第5

ミスが無いよう、連絡方法の変更を行い対応しました。

### 5 職員の資質向上に取り組みます

- ① 施設内研修会 12 回、居宅内研修 12 回参加し、研鑽を重ねました。
- ② 愛南町介護支援専門員連絡会へは 6 回、研修会には 2 回参加し研鑽しました。  
愛南町主任介護支援専門員連絡会に 7 回参加し、「あいなんネット通信」を 2 回発行、愛南町の社会資源情報集を作成し、愛南町内の介護支援専門員へ配布し、介護支援専門員の活動支援を行いました。また、県で開催される介護支援専門員特別研修等に参加し研鑽しました。
- ③ 介護支援専門員の交代がありましたが、利用者に支障がないよう、業務の引き継ぎや連携を行った結果、介護支援専門員の交代に関する苦情はありませんでした。

### 6 新規利用者の受け入れに努めます

- ① 26 年度のサービス計画作成利用者数は 1,415 名、1 ヶ月の平均利用者数は 117.9 名、25 年度の 1,538 名と比較し 123 名、8%の減となりました。介護支援専門員 1 名あたりの平均利用数は 29.5 名でした。26 年度は介護支援専門員の交代があり、新規利用者の受け入れが難しい状態からのスタートであったため、利用者数を増やすことができず、利用者減となりました。  
27 年 1 月より利用者数については徐々に回復し、3 月には前年度の月の平均利用者数まで回復しています。27 年度は常に介護支援専門員 1 名あたりの標準担当件数 35 名が確保できるよう、愛南町地域包括支援センターや各サービス事業所等との連携を密にとり、新規利用者の受け入れに努めていきます。
- ② 愛南町地域包括支援センターより紹介を受け、支援困難事例者 8 名の受け入れを行いました。

### 7 介護予防ケアマネジメントに取り組みます

- ① 愛南町から委託を受け、介護予防ケアマネジメントに取り組んでいます。26 年度のご利用者は 314 名で、25 年度 272 名と比較し 42 名、13%の増となりました。介護支援専門員 1 名あたりの平均利用者数は 6.5 名です。介護予防利用者については、愛南町の動向をみながら利用者の受け入れ、対応を行っていきます。

収益事業

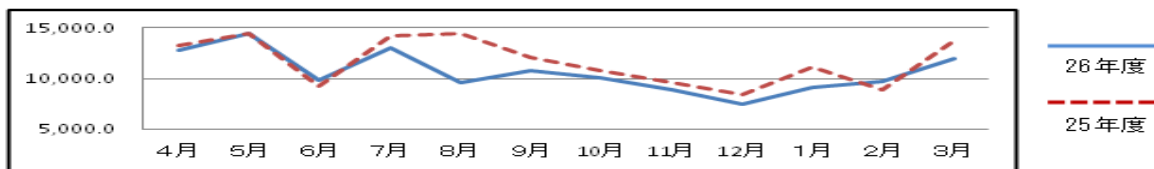
I 自在園太陽光発電所

平成26年度の太陽光による発電状況は次の通りであることを報告します。

売電電力量	127,882.0	KWh
発電電力量	130,298.5	KWh
CO2削減量	72,315.1	kg-CO2

平成26年度分明細

月	売電電力量 kWh	発電電力量 kWh	CO2削減量 kg-CO2	(参考) 昨年値	
				売電電力量	差異
4月	12,740.0	13,021.7	7,226.9	13,241.0	△501.0
5月	14,502.0	14,862.2	8,248.5	14,494.0	8.0
6月	9,821.0	10,011.8	5,556.4	9,275.0	546.0
7月	12,996.0	13,318.5	7,391.7	14,178.0	△1,182.0
8月	9,593.0	9,802.8	5,440.6	14,406.0	△4,813.0
9月	10,827.0	11,061.2	6,138.9	12,074.0	△1,247.0
10月	10,090.0	10,269.3	5,699.4	10,761.0	△671.0
11月	8,906.0	9,026.5	5,009.7	9,617.0	△711.0
12月	7,527.0	7,584.9	4,209.7	8,395.0	△868.0
1月	9,150.0	9,242.5	5,129.4	11,120.0	△1,970.0
2月	9,711.0	9,842.3	5,462.4	8,941.0	770.0
3月	12,019.0	12,254.8	6,801.5	13,767.0	△1,748.0
合計	129,882.0	130,298.5	72,315.1	140,269.0	△12,387.0
平均	10,656.8	10,858.2	6,026.3	11,689.1	△1,032.3
最大	14,502.0	14,862.2	8,248.5	5月	△8.8%
最小	7,527.0	7,584.9	4,209.7	12月	



環境貢献の状況

●エネルギーの削減効果

ドラム缶約145本分の火力発電の石油消費量を削減できました。



※ 火力発電所の石油消費量を1kwhあたり0.227リットルとして換算。

●CO2の削減効果

クスノキ185本を植えたのと同じ効果がありました。



※ 高さ10mのクスノキ1本が年390kgのCO2を吸収するとして計算。



太陽光発電は天候に左右されますが、年間を通して昨年より晴れの日が少なかったように思われます。特に発電量の多い夏季(7月末~9月上旬)に雨天が続いたことにより、昨年に比べて12,387kwh(-8.8%)の減となりました。